

「自立生活センターは障害者が自ら運営主体となり、地域で生活するためのサービスの提供や、環境整備を求める政策提言などを行います。プロジェクトではハウテン州の2つの障害者団体をパートナーとして2013年、JICA草の根技術協力事業を通じて南アフリカで始まったのが、自立生活センターの設立に向けた人材育成プロジェクトだ。



住宅改善に関する知識を身に付けるためのワークショップ。実際の住宅を採寸し、改善方法を議論した

「取り組んでいます」と話すのは、プロジェクトマネージャーを務める、認定NPO法人DPI日本会議の宮本泰輔さんだ。
国際NGO「障害者インターナショナル（DPI）」の国内組織として1986年に設立した同人には、障害当事者によって運営されている96団体（2017年8月現在）が加盟しており、障害者の地域生活、権利擁護、教育、雇用などさまざまな課題に取り組んでいる。アフリカとの関係が始まるきっかけとなったのが、2002年度に南部アフリカ地域を対象として始まったJICAの研修を担当したこと。この研修を通じて、アフリカでも「自立生活センター」などへの関心が高まったが、なかなか最初のモデルケースが立ち上がるまでには至らなかった。そこで2013年、JICA草の根技術協力事業を通じて南アフリカで始まったのが、自立生活センターの設立に向けた人材育成プロジェクトだ。

「大きな一歩となった自立生活センターの設立」
2011年の国勢調査によると、南アフリカでは、5歳以上の人口の7.5%が障害者だと推計されている。同国の社会福祉サービスを管轄する社会開発省は、07年に批准した「国連障害者権利条約」に基づき、サービスがより多くの障害者に行き渡るようにガイドラインや政策策定に取り組んでいるが、地域生活を支えるサービスは十分とはいえない。
南アフリカに到着したリフト付きの車両。東京都内の市民団体からの寄贈で、障害者のための移送サービスに活用される予定だ

行政や地域社会とも互いに協力し合う関係に

その後、草の根技術協力事業の第2期として「アクセシブル」なまちづくりを目指す取り組みが昨年9月に始まり、活動の一つとして、障害者のための移送サービスのモデルづくりが進められている。移動距離を短くし、より多くの人々が利用しやすいようにと検討

「長年、日本は南アフリカに対して、障害者の自立した生活や社会参加を促進するための協力を続けてきました。今、直面しているのは、交通機関や住宅がバリアフリー化されていないために、障害者の通院、通勤、通学、人との交流などあらゆる社会活動が阻まれているという問題です。そこで、交通や建築物の利便性の向上を図り、障害者にとっても活動しやすい「アクセシブル」なまちづくり

「長年、日本は南アフリカに対して、障害者の自立した生活や社会参加を促進するための協力を続けてきました。今、直面しているのは、交通機関や住宅がバリアフリー化されていないために、障害者の通院、通勤、通学、人との交流などあらゆる社会活動が阻まれているという問題です。そこで、交通や建築物の利便性の向上を図り、障害者にとっても活動しやすい「アクセシブル」なまちづくり

「長年、日本は南アフリカに対して、障害者の自立した生活や社会参加を促進するための協力を続けてきました。今、直面しているのは、交通機関や住宅がバリアフリー化されていないために、障害者の通院、通勤、通学、人との交流などあらゆる社会活動が阻まれているという問題です。そこで、交通や建築物の利便性の向上を図り、障害者にとっても活動しやすい「アクセシブル」なまちづくり

「長年、日本は南アフリカに対して、障害者の自立した生活や社会参加を促進するための協力を続けてきました。今、直面しているのは、交通機関や住宅がバリアフリー化されていないために、障害者の通院、通勤、通学、人との交流などあらゆる社会活動が阻まれているという問題です。そこで、交通や建築物の利便性の向上を図り、障害者にとっても活動しやすい「アクセシブル」なまちづくり



技術協力プロジェクトの監査大輔専門家（後列右端）と上岡廉専門家（後列左端）。「地方自治体の行政官と協力し、障害者の自助グループの設立・強化による地域に根差したコミュニティ開発に力を入れています」



プレトリア
南アフリカ共和国

From Republic of South Africa

社会を変える主体になる

社会福祉サービスが十分ではなく、多くの障害者が施設や家族のもとで生活している南アフリカ共和国。彼らの自立した生活や社会参加を後押ししようと、日本のNGOや専門家が結集してさまざまな協力を続けている。プロジェクトの信念は、「主体は障害者自身」であることだ。



南アフリカに到着したリフト付きの車両。東京都内の市民団体からの寄贈で、障害者のための移送サービスに活用される予定だ



障害者同士が対等な立場で話を聞き合うピア・カウンセリング。自立生活や社会参加のために主体的に取り組もうという意識の醸成にもつながっている